

第3章

第1次計画の成果と課題

- 1 第1次計画における目標値の達成状況
- 2 第1次計画における目標値の成果と課題



1 第1次計画における目標値の達成状況

第1次計画では、5つの数値目標を設定し、計画期間中は4つの取組みの方向別に様々な事業に取り組みました。第1次計画の数値目標の達成状況を評価し、第2次計画に成果と課題を反映します。

達成率の計算方法	最終評価値／目標値×100%	
評価基準	A：目標達成	B：80%以上達成
	C：60%以上達成	D：60%未満

目標	指標*	目標値	現状値 ※1	最終評価値 ※2	達成率	評価
①食事を楽しくおいしく食べる	毎日3食食べる人の割合	90%	81.9%	84.8%	94.2%	B
	食事を満足している人の割合	80%	71.1%	73.1%	91.4%	B
②食事づくりに参加する	食事づくり（買い物・調理・配膳・片付け等手伝いも含む）に参加している人の割合	95%	91.8%	93.0%	97.9%	B
③地域活動に参加する	地域の活動に参加している割合	70%	62.2%	73.1%	104.4%	A
	農林水産に関わる体験をしたことがある割合（教育ファームを含む）	90%	84.3%	94.9%	105.4%	A

※1 現状値は、2010年（平成22年）5月実施の「逗子市食育に関するアンケート」による。

※2 最終評価値は、2014年（平成26年）5月実施の「逗子市食育に関するアンケート」による。

教育ファームとは



生産者（農林漁業者）の指導を受けながら、作物を育てるところから食べるところまで一貫した「本物体験」の機会を提供する取組みです。この継続的な体験（食農体験活動）を通して自然の力やそれを生かす生産者の知恵と工夫を学び、生産の苦労や喜び、食べ物の大切さを、実感をもって知ることが目的です。

例：野菜栽培活動・米作り・漁港でのワカメのたね（苗）付け～収穫の体験等

2 第1次計画における目標値の成果と課題

目標① 食事を楽しくおいしく食べる

《成果と課題》

「毎日三食食べる」と答えた人の割合は84.8%と、現状値より改善されているものの、目標値は達成できませんでした。

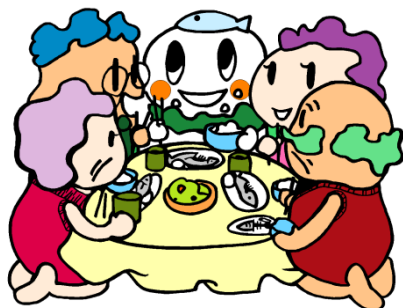
子どもの保護者において「毎日三食食べる」と答えた人の割合は、子どもの年齢が上がるにつれて、保護者の欠食が増える傾向が見られました。「平成22年度児童生徒の食事状況等調査報告書」においても、保護者の朝食欠食は3年前と比較すると増加の傾向（「ほとんど食べない」は4.0 → 5.3%と増加、「必ず毎日朝食を食べる」87.5 → 85.7%と減少）が示されています。

健全な食生活は、成長期にある子どもたちにとって健康な心身を育むために欠かせないものであり、子どもの頃に身についた食習慣を大人になって改めることは困難です。そのため、保護者の食習慣や生活時間の改善等は、子どもの健全な食生活の形成に結びつくことが指摘されており、今後も引き続き、重要課題として取り組む必要があると考えられます。

また、「食事を満足している人の割合」においても、回答した人の割合は73.1%と、現状値より数値は上がったものの、目標値には至りませんでした。

食事への満足度は、食事の内容（豊富な食材、美味しさ、嗜好等）のみならず、空腹感、食卓の雰囲気、共食する仲間等の環境要因によっても左右されます。前回の結果と比較すると、三食に対する満足度は高まっていますが、「一人で食事する」人の総数割合は、朝食で25.2%、夕食で7.7%を示し、全国平均（朝:19.2%、夕食:4.2%）、神奈川県（朝:22.8%、夕食:6.4%）と比較して高い結果となりました。

家庭における「共食」には、①規則正しい時間に食べる、②栄養バランスが高まる、③コミュニケーションを図ることで食事の楽しさが増す、④食事のマナーが身につくなどの効果が期待されているため、今後さらに、快適で健康的な食事を学ぶ環境の整備が求められます。



目標② 食事づくりに参加する

《成果と課題》

食事づくりへの参加頻度は、「いつもしている」という日常的な参加が63.0%、「時々している」30.0%を含めると、総数で93.0%でした。現状値（91.8%）に比べて改善はされたものの、ほぼ横ばいの結果となりました。

また、小中学生保護者の食事づくりへの参加頻度が84.4%と、高い傾向が見られました。

一方で、小中学生の「食事づくりをまったくしていない」人の割合は12.1%で、前回（12.5%）と変わらず、改善は見られませんでした。

今後も食事づくりに参加する人の割合が増加する環境の整備が求められます。



目標③ 地域活動に参加する

《成果と課題》

地域活動に参加している人の割合は73.1%を占め、目標値70.0%を上回りました。現状値（62.2%）と比較してみても、地域活動への参加率が高まっていることがわかります。

地域活動への参加は、人と人との絆、人と地域とのつながりを深めるほか、自らが暮らす地域の特徴や伝統的な文化の継承にもつながると考えられているため、引き続き、様々な場の提供を行い、地域活動の機会を増やすことで、より新たな展開が期待できます。

また、農林水産にかかわる体験をしたことがある人（高齢者を除く）は94.9%を占め、目標を達成しました。体験をしたことがある人の7割以上が「さらに体験してみたい」と回答していることから、これまで農林水産にかかわる体験をしたことがない人だけでなく、一度体験したことがある人にもより幅広く持続的な体験の場が提供できるよう、希望の多い「野菜や果物の栽培・収穫」、「魚釣りや地引網」、「田植え・稲刈り」等の事業展開が期待されます。



1

主食 ししょく

☆アイテムポイント
 すぐに君の力に変わる。走ったり遊んだり、勉強するのに絶対必要だ！

★コーション(注意)
 ・バランスが大切！このアイテムだけでは強くなれないぞ。
 ・1日を元気に過ごすために、朝ごはんもしっかり食べよう！

2

主菜 しゅさい

☆アイテムポイント
 君の血や骨や筋肉になる。大きく、強くするのに絶対必要だ。1食に1回は主菜を食べよう！

★コーション(注意)
 肉、魚だけでなく、納豆やタマゴ、とうもろここの類も通えるぞ！

3

副菜 ふくさい

☆アイテムポイント
 体の調子を整える。お顔や背筋をきれいにしたり、病気になるにくくする。いいウンチを出すのにも欠かせないアイテムだ！

★コーション(注意)
 ・野菜の苦手な人は、小さめにカットしてもらったり、炒めたりすると、匂いが弱くなるぞ！
 ・野菜はたくさん種類がある。いろいろチャレンジしてみよう！

フード・エデュケーション・カード

いつもの食事で、3つのカードをゲットしよう！
君は最強になれる！！

フード・エデュケーション・カードの使い方

- ☆ 食事のとき、3つのカードがどろっているか、確認してみよう。
- ☆ それぞれのカードには、エフェクト(効果)が通う。確認が必要だ。
- ☆ 3つのカードをどうえた食事は、君を最強にする。
- ☆ 3つのカードの他に、君を最強にするアイテムは、この裏面をチェック！
- ☆ 分からないことは、おうちの人や、栄養士さんに聞いてみよう！

株式会社 食育推進センター
 電話 046-872-1111(内線241~242) FAX 046-872-4820
 E-mail kankou@city.tokushima.lg.jp
 『健康なまち』の実現を目指して、食育推進センターができました！
<http://www.city.tokushima.lg.jp/kyokai/kyokai.html>

フードエデュケーションカード
 バランス食を分かりやすくカードにしたものです。
 豆子市のホームページ、食育からダウンロードできます。